

「山行中における熊との遭遇に備えて」講演会開催さる

摩耶山友会 加藤 広樹

今年の8月に羅臼岳で下山中の若者がヒグマに襲われるという痛ましい事故を皮切りにクマによる被害の報道が相次いでいる。私は週末猟師だが、現在までクマを仕留めたことはおろか、クマに出会ったことすらない。そこで去る10月23日、旧知の豊岡市有害鳥獣主任対策員である岡居氏に講演をお願いした次第である。

以下、講演会の当日に配布した資料に沿って聴取事項をまとめたものを掲載することとした。講演会の録画はホームページ掲示板 No.39 の投稿から視聴できるのでクマ対策の正しい知識の一つとして是非ご覧いただき、クマに対するセルフディフェンスに備えていただきたい。

なお、ここでいう「クマ」はツキノワグマ中心であることをご了解願いたい。

・講師紹介

講師の岡居氏は豊岡市農林水産課の有害鳥獣主任対策員として着任した2014年から現在までの間、クマの生態を知るために自らクマに出会いに行き観察すること300回、このほか偶然クマに出くわすこと60回、そのうちクマに襲われること3回、そして3回ともクマを撃退している。このような実体験により得た知識をもって「なぜそうなのか」という理由から非常にわかりやすく解説いただいた。

また岡居氏は、農林水産省・農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーとして全国の自治体に対してクマのみならずその他の鳥獣被害について対策を講じるとともに、情報共有をしている。

1 クマについての基礎知識

- ・クマの嗅覚は犬の3倍でにおいを取るため山の高いところ、稜線を歩く。また木々の鬱蒼としたところよりもにおいを取りやすい明るく開けたところを好む。
- ・クマの生態は各地で異なり、兵庫のクマは柿を食べるが、長野のクマは柿よりもオニグルミやサワグルミを好む。

・クマの活動サイクル

- 12月中旬～ 冬眠に入るが巣穴には注意が必要（猟犬が襲われている）
- 3月末～ 冬眠から覚める。溪流釣りなど注意が必要
- 8月中旬～ 冬眠に向け食欲旺盛になり食料への執着が高まる。
- 10月中旬～ 食料への執着が強く極めて危険

・クマの危険度（危険なサイン）

- 子グマを木に押し上げている母グマは非常に危険
- 首を上下に振るのは威嚇しているので危険（左右に振るのは自らの逃げ道を探しているサイン）

クマのぬいぐるみのようにぺたんと座った姿勢は人間でいう「そんきょ」にあ

たり襲いかかる寸前の臨戦態勢であり非常に危険なサイン（全力ですぐ逃げろ）
檻に入ったクマはこの状態から突進してくる。

・足跡を追跡していると突然足跡が消え、どこへ行ったのかわからない時がある。
クマは追跡をかわすため、進んだ歩幅と同じ歩幅でもと来た道に戻る習性があり、これを「戻り足」と呼ぶ。

2 近年のクマの出没傾向について

豊岡などのいわゆる里山型のクマは人をよく観察しているが、高山の多い地方のいわゆる奥山型のクマは人を知らない（人を恐れない）。そして東北地方のクマは稲を食べるようになってきており、米に対する執着心が非常に強く危険である。

3 事故の傾向

もともとクマは警戒心が強く人を恐れてクマのほうが人を避けるため、出会い頭の事故が多い。ヒグマによる事故は餌付けされていた個体によるものがある。

4 クマスプレーについて

向かい風の時のクマスプレーの到達距離について実験を行っている。左の写真は風力0.5、右の写真は風力1.0であるが、このような非常に弱い向かい風でも到達距離は半減している。



・クマの急所である鼻や目に当たらなければ効かないため、まっすぐ噴射するのではなく、上下左右にジグザグに広範囲に噴射する。

風向きをよく読み、狙いを定めなければならないため、突進してくるクマに対して正確に噴射することは難しい（逃げるべきである）。

・クマスプレーがうまく急所に当たると攻撃はやむが、クマは立ち去らないか、その場に戻ってくることが多い。

・クマスプレーの主原料であるカプサイシンはクマを誘引するため、空スプレーは放置せず必ず回収し、かかったところを水で洗い流すこと。テント場で使用した場合は必ずその旨、管理者に告げること。

・自分にかかってしまった場合は成分が油性のため水筒などの少量の水では洗い流せない。川などで大量の水で洗い流すか中性洗剤で洗うこと。お湯を使うと非常に痛いので絶対に使用しないこと。

- ・クマスプレーを浴びると激痛の初期症状のあと少し和らぐ中期症状があり、この時に車など安全な場所に移動する。歩いて顔に風があたるだけでも痛みは和らぐ。
- ・背の高い草木が生い茂った場所では十分に噴射できないばかりか、自分のほうにかかってしまう恐れもあるなどクマスプレーを有効に使用することは難しく、したがってクマスプレーは万能ではない。
- ・クマスプレーには安価なものから高価なものまで多種あるが、安価なものには噴射継続時間が非常に短いものがある。
- ・米国製の「カウンターアソルト」はヒグマ、ツキノワグマ共に有効である。

5 忌避道具と出会い頭事故の回避

- ・クマ鈴は人の接近を知らせる効果はあるが、沢の近くでは音がかき消される。
- ・鳴らしましなしのラジオはクマの発する警戒音に気付きにくい。
- ・クマ鈴や笛がなくとも歩きながらの拍手、口笛、歌声はどれも効果があり、また、ドンドンと足や杖で地面に伝わる振動も有効である。
- ・大音量のベアホーンや爆竹などはクマが驚いてその場に立てこもったり、こちらに向かってくる場合がある。
- ・クマに出会わないことが一番重要である。
- ・避けるべき場所
早春の渓流（冬眠明けの危険な時期）
夏の大きな谷づめ（涼しいのでよく出会うところ）

6 クマの発する音（警告音）

- ・バンバンと激しく地面をたたく音やぞっとするうなり声
- ・警告音を出しているクマはすぐには襲ってこないで速やかに逃げる。
- ・変声期の子供が「おーえ、おーえ」と叫ぶような声は母グマが子グマを呼ぶ声（母グマが近くにいるということ 録画 1：14：45 あたり参照）

7 出会ってしまったら

- ・大きな声を出さない、悲鳴を上げない（クマが威嚇されていると思う）。
- ・見て見ぬふりをして通り過ぎる（クマも人を避けたい）。
- ・こけないように早歩きで逃げる。岡居氏はクマに偶然出会ったときはこの方法を実践している。
- ・目を見ながら後ずさはり転倒の恐れがあり危険。その瞬間に襲われた事故あり。また、顔をやられる可能性が高い。
- ・走って逃げて襲われた事故では致命傷を負っていない。
- ・立ち木などクマとの間の遮蔽物に移動する。クマは直進するよりも左右の動きが鈍い。

8 安全距離

- ・立ち木など遮蔽物があれば、15m位が安全距離。

- ・遮蔽物のない見通しの良いところでは 150m でも安全とは言えない。

このような場所でクマがこちらに近づいたり離れたりしているときは、人に興味を持っているので下山したほうが良い。

9 襲われたとき

- ・襲われた人の動画からの考察（録画 1：23：00 あたり）

母グマを刺激しない（大声を出したために襲ってきた）。

クマを立ち上がらせない（立ち上がる前に棒で頭を叩いている）。

立ち上がらせなかったことで、顔への致命傷を防ぐことができた。

立ち木で防ぐ（立ち木に回り込んだ時にクマが逃げた）。

- ・岡居氏が襲われた時の状況（今までに 3 回襲われている）

1 回目は一つ向こうの尾根を下ってゆくクマと平行に追いかけていたところ、急にこちらに向かって谷を降りたと思ったら下から襲いかかってきた。立ち木を盾にして互いに回りあっているうちにクマが落ち着いて動きがゆっくりになったところ为上から鼻先を蹴り飛ばすと退散した。

2 回目は非常に大きな個体を追いかけていたとき、戻り足をされて気付かずに通り過ぎたところで斜面の下から飛びかかれた。取っ組み合いになったがナタで応戦し、離れた瞬間に口元めがけて蹴り飛ばすと傾斜があったため斜面を転がり落ちていった。

3 回目は鹿の出産を観察していたところ、音を忍ばせて数メートル横までクマがやってきた。息を殺していたが、匂いをかぎ始めてこちらに気付き、馬乗りになられたが、両手で頭を抱え込むようにガードして亀のように丸まってしゃがむことで腕を叩かただけで済んだ。このときも傾斜の上手にいたため、隙を見て逃げることもできた。

クマに襲われたときはどのように対処すればよいのだろうか。実際に襲われた者の話にそのヒントはある。

- ・クマに出会ったとき大声をあげてはいけない。
- ・クマとの間に立ち木など遮蔽物を探す。
- ・クマの急所は鼻と口で、可能であれば急所を蹴る。
- ・棒などを持っていた場合、立ち上がらせないように急所を叩く。
- ・逃げきれなかった場合、最終的には両手で頭を抱えるように首、顔を保護しながら亀のように丸まってしゃがむ。

10 情報の収集

自治体が公開しているクマの出没情報は危険度までは発表しない場合が多い。

11 痕跡写真

- ・左がアナグマ、右がクマのふん。アナグマのふんはとても臭い。



- 左がクマの爪痕、右が鹿の角研ぎの跡で下から上へ傷跡がある。



- 母グマと子グマの足跡 母グマはかなり内またで大きなクマであることがわかる。



12 質疑応答

講演会後に寄せられた質疑も含めて抜粋して回答を掲載する。

問 アルプスなど高山地方のクマについて教えていただきたい。

答 森林限界を超えるとそもそもクマのエサがないため、そこに現れるクマは人にエサを求めていると考えられ、良い写真を撮影するために餌付けされている個体も多く危険である。目撃情報があれば下山すべきである。

問 北アルプスの樹林帯では冬眠時はかならずクマは寝ているのか。

答 確実に寝ているとは限らない。気温が高く天気の良い日は巣穴から出て梢の上で日向ぼっこしている個体に注意が必要である。

問 テント場でのクマの忌避剤があれば教えていただきたい。

答 森林限界を超えた場所にはクマのエサはないため、テント場には残飯や人の持っている食料を目当てに現れる。このような個体が居ついている場所でテントを張るべきではない。

また、クマスプレーなどカプサイシン由来のものはクマを誘引するため絶対に使用しないこと。

最後になりましたが、当講演会開催にご理解を賜り、兵庫労山から副理事長をはじめ、理事の方々にご臨席いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

ありがとうございました。